



鬼さんこわーい！でも近づきたい？

ふたば保育所



怒り鬼、泣き鬼、すね鬼など「心の魂」も退治したよ

池川保育園



ほほえみ

No.8



赤鬼さんと記念撮影。みんな元気でいい子だよ！

長者保育所

鬼は外～！福は内～！ 各保育所で豆まき

2月3日、町内5カ所の保育所で節分の行事が行われました。

赤鬼や青鬼が登場すると、泣いてしまう子、隠れてしまう子などがいましたが、最後は元気な声で「鬼は外～！福は内～！」と、豆まきをしました。



赤鬼、青鬼さんと町長さんを訪問しました

大崎保育所



鬼の顔のクッキーを作ったよ。鬼をたべちゃうぞー！

名野川保育所



小学生のお姉さんたち、ありがとう！

池川幼稚園

2月3日、小学生数人が図書委員会の授業を利用して、絵本の読み聞かせに幼稚園に来てくれました。

池川幼稚園は池川小学校に併設されているため、小学生たちとかかわる機会も多く、いつも休み時間などには一緒に遊んでもらっています。

この日来てくれた小学生たちともすっかり顔なじみで、お姉さんたちが読んでくれる絵本や紙芝居をじっと見入っていました。

その後、折り紙遊びも教えてもらい、楽しいひとときを過ごした子どもたちでした。



もちつき防火パレード

大崎保育所

2月8日、恒例のもちつき防火パレードを行いました。

雪の降る中、朝早くから保護者や地域の方々、消防団関係の方々とおもちをつきました。そして保育所から中央公民館までのパレードで「火の用心のおもち」として、沿道の人に配りました。

セレモニーでは、歌や踊り、合奏を披露し「防火のかるた」を発表し「火遊びは絶対しません」などと防火の誓いをしました。

「防火のかるた」を手に



池川小学校

児童の作文より

中学校半日入学

六年 中川 海里

二月二日、池川中学校への半日入学でした。

まず、音楽室で話を聞いた、劇を見たり、真剣さんと笑いがあふれていて、楽しかったし、中学校のことがよく分かりました。

校舎案内では、(道が分からんなあ。)と思いました。簡単かと思っていたけど、「あの教室はここにある。」と言いつけることができました。

そして、ぼくがちよつとこわいと思ったのが先生です。今ふり返つてみても、やつぱり少しこわいです。それから勉強した数学では、乾先生がランプを使ってわかりやすい説明をしてくれて、けっこう楽しかったです。

部活のソフトテニスでは、最初(楽しいなあ。)と思いがけラケットを取って球をポンポンしました。それが少し楽しかったです。そして、連打というのが一番楽しくって、なぜかソフトテニス部に



授業を見学

入りたくなりました。そこで、また来てもいいのか聞くと、「たいがい、いつでもやりようき来てもいいよ。入部したらすぐに大会があるき、出すかもしれんけね。」と言ってくれたので、月曜日にまた行ってみようと思いました。

ぼくは半日入学の中で、特に体験入部が楽しかったです。

別府小学校

がんばった秋葉まつり

二年 吉村 悠翔

秋葉まつりの前の日の夜、秋葉まつりのことを考えて、きんちようしてねむれませんでした。

つぎの日、五時におきて、きりのくぼへ行きました。いしょうに着がえておどりをおどりました。わらじをはいて



太刀踊り

いたので足がいたかったです。いっぱい歩いたのでつかれました。

秋葉神社は、広くてたくさんの人が見ていたので、すぐくはずかしかったけど、うまくおどれました。すごかったです。

二年 片岡 杏葉

秋葉の朝は、弟といっしょに五時半からきりのくぼに上りました。そこでけしやや着ものを着ました。わたしはきよ年からみこをしていました。みこさんのおどりはとてもおもしろかったです。あぶら売りが来た後におどりが終わりました。そのあと、石のかいだんでおみこしやねりのおどりを見ました。弟はおどりながらわたしたちをさがしていました。わたしは手を

ふろうと思いましたが、おにが来るといやなのでやめました。

お母さんは、朝からおどる人のおけしやをしたり、弟のおせわをしたり、わたしのおどりをしたり、いそがしうでした。秋葉の日だけは男の人もおけしやをするんだなあと思いました。秋葉まつりは、あつという間に終わってしまいました。

長者小学校

児童の作文、詩、絵を紹介

します。

はじめての秋葉まつり

二年 齋藤 太一

きょう、秋ばまつりを見に行きました。かぞくで見に行きました。お父さんが言ったとおり人も車もいっぱいでした。

と中でたいやきをかかって食べました。おいしかったです。たいやきを食べっていると、へんなおめんをかぶった人やおにのおめんをかぶった人がきました。ちよつとこわかったです。

その後に、長いぼうの先に

黒い毛がついているものを持った人が、そのぼうを投げました。向こうにいる人が受け取りました。ぼくが、「すごい。」と言いました。

それから着物を着た小学生ぐらいの人がおどっていました。うんどう会で、兄ちゃんたちがやった花とりおどりにたおどりをしていました。頭にはかぶとをかぶっていました。その中につかきくんがいました。

ぼくの筆箱

四年 西森 悠希

ぼくの筆箱は、えんぴつや消しゴムとかいっぱい入ってるけど、重くないかな。

後、けつたり、ぶら下げたりしてるけど、

だいじようぶかな。今度からたいせつにするよ。

お金

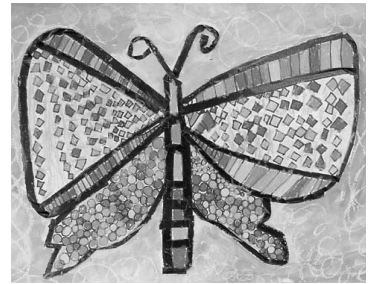
四年 齊藤 壮汰

ご主人のさいふの中にたどり着いた。

ご主人と家族の名前をおぼえたぞ。

あれれ、

ほかのさいふに行っちゃった。せつかくおぼえたのにー。



2年 西森 千絵
「カラフルなちょう」

名野川小学校

上田真弓さんに会えて感動

医療ソーシャルワーカーとして活躍されている、上田真弓さんの講演がありました。交通事故により体が不自由になった上田さんですが、前向きな生き方、周囲の方の支援でいろいろな活動にチャレンジしている話をしてくださいました。



上田 真弓さん

児童から真弓さんへの手紙

二年 西田 剛

はじめに、ぼくは（早く会いたいな）と思っていました。車いすでわざわざ来て話をしてくれてとてもうれしかったです。明るく元気そうで前向きなので、聞いていると中で泣きそうになりました。自分でできることはできるだけしているの、（えらいな。はたらいっているんだ。）と思いました。

家でいっぱい話し合いました。お母さんが「真弓さん、車いすにのっているのはたらいで車いす生活はけっこういいことはないけどよ。生きて生活しゆうがやって。」と言っていました。弟の竜も「真弓さん、えらいね。話聞いて明日に向かって（歌）すぐすきになった。」とも言っていました。

ぼくは、上田さんの話を聞いて、いのちの大切さと生きてゆくことをもともと楽しんで、もっと話したりすることを学びました。明日に向かって入っていた「ぼくはぼくにまけたりしない」という言葉がすつごく大すきです。竜は家で、明日に向かってををぼえて、「ぼくはぼく

にまけたりしない」とか大きな声で歌っていました。

立てる力がなくても、どんなちようせんしてやっていることがすごいえらいなあと思いました。

大崎小学校

縄跳び大会

冬晴れに恵まれた一月二十六日、縄跳び大会を開きました。

大勢の保護者や地域の方々に見守られ、子どもたちは存分に練習の成果を発揮しました。大会後の児童の感想を紹介します。

なわとび大会

三年 橋村 早紀
「79、80、81、82…」時間跳びはかなり長かったです。

「86、87、88、89」「バシッ」八十九回目で足に当たってしまいました。練習では七十二回だったのに八十九回になったので、うれしかったです。

（もう一回チャレンジしよう）と思ったその時でした。「ピーッ」となっていました。わたしの最高は八十九回でした。

た。八十回以上になったのでうれしかったです。

わたしは、（四年になったらもつとがんばって百回をこえる。ぜったいに）と思いました。

ドキドキなわとび大会

三年 大原 めい
「ビュン、ビュン、ビュン」（わあ、やばい。ひっかかりそうだ）秋の運動会ほどお客さんがいませんでした。けど、わたしは、今日はとてもはにかしかったです。ひっかかりそう、ドキドキするし、なわとびが短いからやりにくいです。（ふうっ。二重とびだったらいいのに）「94、95、96、97、98、99、100…」（あつ。百回いった。よし）わたしはそのときうれしかったけど百十回目でひっかかりました。（ああーおしい）わたしは、くやしくて、なきそうだったけど、がまんしてなきませんでした。またとびはじめました。（いそがしいのにきてくれたお母さんのためにがんばるぞ）そう思いながらとびました。



元気いっぱい縄跳び

池川中学校

小学生体験入学

四月から中学生になる、池川小学校六年生が半日体験入学をしました。

中学生生活に大きな期待と、いくらかの不安を抱いていると思います。この体験で少しでも雰囲気味わい、中学生としての心の準備をしてもらいたいと思います。



4月が待ち遠しい？

パラグアイ日本語学 校から研修生

海外日系人協会の日本語学校生徒の研修事業で、三浦静子さんが三日間研修をしました。

三年生の授業を受けるなど、楽しく交流することができました。



三浦静子さん(左から3人目)

租税教室

伊野税務署総務課長さんを講師として招き、三年生を対象に国税に関する組織の概要や地方の財政について学習することができました。



租税について学習

仁淀中学校

小六体験入学行われる

二月三日の午後、長者・別府小学校の六年生十九人が体験入学を行いました。

校長先生、生徒会長の歓迎のあいさつの後、六年生一人一人が緊張しながらも立派に自己紹介をしてくれました。

続いて、生徒会から中学校の生活について、各部のキャプテンから部活動についての説明があり、その後、授業の様子や施設を見学しました。

六時間目に行われた交流授業では、中学一年生と一緒に男子はたこ作り、女子はビーズでアクセサリを作りました。

この日は風が強く、男子はたこ揚げでたこをコントロールするのに苦労していました。女子は細かい作業でしたが、かわいいビーズの指輪を作りました。

最後にソフト部、バレー部、卓球部に分かれて体験入部をして汗を流し、体験入学を終えました。

小学生の感想

校内を回って一年教室に行った時に英語の授業を見て、先生がテンションが高かった

のでおもしろかったです。ビーズ作りでは中一の人と楽しくできたし、自分だけの指輪もできて良かったし、かわいい犬を作ったものももらえてうれしかったです。

部活ではランニングの時、みんな一人一人が大きな声が出ていて、私も中学生になつてがんばれば、あんな声が出せるかなとワクワクしました。トスやレシーブやアタックの練習もさせてもらって楽しかったです。

少しの間だったけど授業を見て、部活をすることで、中学生になるのが楽しみになったよかったです。



ビーズアクセサリ作りを体験

吾川中学校

体験入学

二月二日、大崎・名野川小学校の六年生が本校への体験

入学に来てくれました。

保護者や先生も含め四十人が参加し、校舎内の施設案内と説明を受けながら、中学生の授業風景を見学し、お兄さんやお姉さんの姿を真剣に見詰めていました。

参加者全員による、楽しみながら心と体をほぐす「チャレンジ冒険教室」に臨み、両小学校の仲間は親睦を深め、楽しいひとときを過ごしました。

その後、生徒会執行部の説明や各部活動主将による紹介などを受けた後、希望する部活動に参加しました。参加者は、四月から始まる中学校生活に對し、期待に胸を膨らませていました。



楽しみながら「中学校」を体験

中学校は、新しい一年生に「新風」を期待し、生徒会・教職

員集団が四月の入学式の準備を整え心よりお待ちしております。

仁淀高校

高吾地区高等学校 伝大会で健闘

新春恒例の高等学校駅伝大会(主催・高体連高吾支部)が一月十九日、須崎市で十三校の参加で行われました。

女子が一周二キロ、男子が四キロの周回コース六区間に女子十二チーム、男子二十三チームが参加し健脚を競いました。

本校は日ごろ部活動で活躍している一・二年生を中心にチームを編成し、この大会を目指して連日持久走の練習に励んできました。

女子チームはそれぞれの区間で選手が常に自分の力を出しきり、昨年度を一分三十九秒も上回る一時間三十三秒で見事第六位に入賞しました。

男子チームもスタートから常に上位につけ、全員が自信の健脚を披露し、一時間二十二分五十六秒で見事に第八位に入賞しました。

なかでも鈴木沙弥香さん（一年）は、九分五十三秒で区間第二位の素晴らしい記録でした。「初めての大会だったので、緊張していましたが、いつもどおりの走りをすれば大丈夫だと信じながら走りまわった。練習の時より早いペースでスタートし、必死の思いでゴールを目指しました。ゴールが見えてきたあたりで二人抜きました。疲れたけど楽しかった」と言う感想を述べていました。

一方、男子の菊池祥彦君（二年）は十二分二十三秒で区間第二位という記録を残し、出場選手百三十八人中第四位となる素晴らしい記録でした。「高吾駅伝は周回コースのため、スタート前は緊張しませんでした。日ごろの持久走のタイムで選手になりましたが、チームとしてのまとまりがあり、しっかり助け合おうという気持ちが出ていました。自己のペース以上の速さで前を走っている選手を抜くことだけを考えていました。最後の直線距離がすぐきつかったけど、順位を上げることができてうれしかった

です」と言うゴール後の菊池君の言葉が印象的でした。

チームワークによる達成感と自己記録にチャレンジできた喜びがあふれていました。伝統のある今大会での成果

は、部活動の活躍が学校の活性化に役立っている本校にとって、大きな力と感動を与えてくれました。

ども教室や学校での総合的な学習、選択音楽（吾川中）で1年間取り組んできた地域伝統芸能を発表する場として、恒例行事となっています。

3年間取り組んできた仁淀高校の大野智美さん（3年）は「自分の心に一生残る、忘れられない取り組みとなりました。みんなといっしょにたたけてよかった」と満足そうに話していました。



息もぴったり。和太鼓の演奏

山里ディスクール

そば打ちと神楽・和太鼓発表会

2月4日、中央公民館で子どもたちや保護者、地域の方々などが集まり、そば打ちと神楽・和太鼓発表会（主催・地域子ども教室「山里ディスクール」実行委員会）を行いました。

そばは7月から畑作り、種まき、間引き、土寄せ、刈り取り、乾燥、脱穀（昔ながらの唐竿やとうみを使用）、製粉を三世代が交流し、楽しみながら取り組んできました。その収穫祭として約60人が参加して「そば打ち」を行い、おいしいそばを食べることができました。

「神楽・和太鼓発表会」は、約100人が参加して開かれました。この発表会は、小・中・高校生が、子

池川自然学園だより

退職にあたり

指導員 山本 秀昭

一身上の都合により、この春で自然学園を退職することになりました。仁淀川町の皆さまには大変お世話になりました。

自然学園へ来た当初は、右も左も分からずに文字通り右往左往していたように思います。数カ月たつと、徐々に町のことや子どものことが分かり始め、毎日楽しく過ごせるようになりました。

仕事に慣れるにつれ、子どもにも求めすぎたかもしれない。でも求めすぎてしまうと、子どもにも僕にも居心地が悪いくらいにもいつしか気が付きました。ちょうど良いラインを見つけ、乗り越えたり届かなかったりしながら子どもと向き合う今のやり方に至っています。そんな風にして中学生という大切な時間を彼らの隣で過ごせたことは、とても貴重な日々でした。

自然学園にいていつも思うことは、学園の子は（学園自身も）仁淀川町に支えられて

いるなあということです。

学園の食事には町内の方から頂いた食材が時々並びます。学園の子どもを土居川へ連れて行くと、勉強をしている時の百倍くらい楽しそうに遊びます。学園の子がソフト部の試合へ行くと、先生や保護者の方はおちろんのこと、知らないおじさんにも「いいヒットだった」と褒めてもらって喜んで帰って来ます。

町の人や自然に支えてもらいながら、子どもたちが大きくなっていることを実感します。都会から自然学園へやって来た子どもは、本当にいい経験をさせてもらっています。大きな街に出かけるとなおさらそう感じます。

仁淀川町の人や自然と触れ合う中で、自然学園の子どもたちだけでなく、僕自身の泉もずいぶんと満ちてもらいました。感謝の心を胸に自然学園を卒業しようと思えます。ありがとうございました。

子どもとのふれあい

～子どもと一緒にコミュニケーションを深めましょう～

★地域教育だより★

